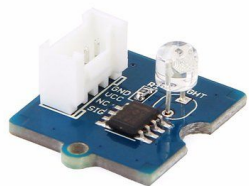


IoTデバイス活用マニュアル



センサ種類: 光センサー

型番: Grove - Light Sensor V1.2

ストーリー: 室内光の強度を測定する。



改訂記録:

2020/12/18 初版 作成 陣内





1. Arduinoのプログラムの変更

ライブラリの読み込みとコードの変更箇所

プログラム

サンプルプログラム: [lightSensor_WIOnodeInput](#)

修正箇所: 以下の該当箇所を利用環境に応じて修正する。

- WiFi の SSID、パスワード
- Azure IoT Hub で発行されたデバイスの接続文字列



2. Stream Analyticsのクエリ変更

修正不要

講座の標準サンプルの温度計の設定のまま
利用できます。





3. PowerBIでのレポートの作成

修正不要

講座の標準サンプルの温度計の設定
のまま利用できます。

データセットを開く



Power BI FactoryScientist受講生サイト

新しい外観をオンにする

検索

フィルター

このページでのフィルター ...

ここにデータ フィールド...

すべてのページでのフィル...

ここにデータ フィールド...

視覚化

フィールド

fstable

device

duration

time

その他のビジュアルの取得

ビジュアルをファイルからインポート

視覚エフェクトの削除

既定の視覚化の復元

ドリルダウン

クロス レポート

オフ

すべてのフィルターを保持...

オン

ドリルスルー フィールド...

fsdataset

fsdatasetを選択する

データを取得

ページ 1

折れ線グラフの設定



注意: センサーの出力値について

本製品は3.3V～5Vで動作する仕様となっており、3.3Vで使用する場合は、groveケーブルで直接WioNodeに接続できる。

しかし、その場合の最高出力値は1024ではなく、
 $676 \div 1024 \times 3.3\text{v} \div 5\text{v}$ となる。

測定の分解能を高める必要がある場合は、5Vでの利用をお勧めする。